

知道 CHIDO-KAIHO 会報

78

編集 知道会広報委員会
〒310-0011水戸市三の丸3-10-1
茨城県立水戸第一高等学校内
発行人 角田芳夫
発行日 平成23年4月20日
通巻 第78号
メール chidou@world.odn.ne.jp

目次	「堅忍力行」の精神を発揮して	1
	写真特集「母校の被災状況」	2
	校長・生徒会長メッセージ	3
	次年度から年会費の預金口座振替を開始します	4

「堅忍力行」の精神を発揮して

知道会会長 角田 芳夫



知道会会員の皆様には、日頃、知道会の活動に対し、格別のご理解とご協力を賜り誠に感謝を申し上げます。

さて、3月11日、宮城県三陸沖を震源として発生したマグニチュード9.0という大地震、それに伴う大津波により、東北・関東地方の太平洋沿岸は、未曾有の人的・物的被害を受けました。被災されました皆様には心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早く復興されますことをご祈念申し上げます。

水戸市におきましても震度6弱の非常に強い揺れに襲われ、我が水戸一高も、本校のシンボルでもありました武石浩波像の崩落、校舎外壁・内壁のひび割れや剥落、

体育館の天井剥落・照明器具の落下、敷地内の地盤沈下・地割れなど、多大な被害を受けました。今なお余震が続くなか、生徒の安全を確保するために、すみやかな補修が必要であることはもちろんのこと、校舎の安全性を確認するための全面的な点検が必要となっております。

知道会の目指すところは、会員相互の交流と、母校への物心両面での支援であります。今回の母校の被災に対して、知道会としても最大限の支援をしていきたいと考えますので、会員皆様方には積極的なご支援を賜りますようお願い申し上げます。

水戸一高の校是は言うまでもなく「至誠一貫 堅忍力行」です。「堅

忍力行」とは、困難を強い意志で耐え忍び努力して実行することです。在校生の皆さんは、しばらくは不自由な環境の下での高校生活を強いられるかとは思いますが、文字どおり「堅忍力行」の精神で、若い力を結集し、この度の困難に屈せず前向きに進んで行ってくれるものと確信しています。

また、「至誠一貫 堅忍力行」は決して在校生だけに向けたものではありません。全国で活躍する2万8,000人にも及ぶ知道会会員に向けての言葉でもあります。母校が今回の困難を一日でも早く克服できるよう、会員一人ひとりのご協力とご支援を重ねてお願い申し上げます。

義援金の募集について

東日本大地震による会員各位の被災した甚大な被害に対し、心からお見舞い申し上げます。

次ページに掲載いたしました校内の被災状況からお分りのように、水戸一高におきましても知道会館も含めて被害は極めて大きなものでした。

このような状況に鑑み、母校被災に

対し会員の皆様から義援金を募り、支援していきたいと思っております。会員各位ご自身も被災されて困難な状況にあるところ誠に恐縮ですが、何卒宜しくご協力の程お願い申し上げます。

なお、義援金は皆様からお預かりするものとし、下記の口座にお振込み頂きますようお願いいたします。

*義援金窓口

銀行名：常陽銀行

店名：本店営業部（店番：004）

口座種別：普通預金口座

口座番号：3209414

口座名：知道会会長 角田芳夫

（フリガナ：チドウカイカイチョウカクタヨシオ）

（注）お振込みに際して、お名前の前に大正・昭和・平成の卒業年次をご記入下さい。（例：平成23年度卒業の水戸一郎の場合・・・23水戸一郎）

※これまでに（4月18日現在）次の方々から義援金が寄せられています。

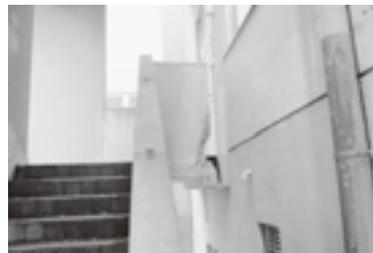
西日本水中一高会 寺門 康友 (25)
土浦水中一高会 角田 芳夫 (28)
常陽知道会 磯崎 元佳 (31)
茨城町知道会 佐川 卓政 (35)
市毛 栄一 (23) 小川 俊明 (40)

飛田 昌昭 (40) 打越 忠 (47)
根本 暁 (42) 栗原 英則 (48)
鈴木 昇 (43) 大内 博文 (48)
田中 利幸 (44) 櫻村 勉 (48)
勝山 文久 (45) 春田 亮 (48)
大槻 明生 (45) 桑島 茂純 (48)
根本 祐一 (46) 鈴木 章彦 (48)
亀山 直樹 (46) 高安 徹雄 (48)
照沼 貞夫 (47) 平勢 隆郎 (48)

金子 茂樹 (48) 白坂 喜宣 (63)
沢畑 慎志 (48) 坂本 正弘 (H元)
坂本 和重 (48) 出澤 兼一 (H元)
篠崎 達志 (50) 更科 晋一 (H3)
関田 國作 (53) 中井川博之 (H5)
酒井 一郎 (55) 片根 賢一 (H7)
萩原 篤 (57) 浦田 裕士 (H7)
須能 祐光 (59) 車田 幸司 (H8)
平山 桂巳 (59) 飯田 貴裕 (H12)

東日本大地震で母校も甚大な被害

3月11日に発生した「東日本大地震」は本丸の台地を激しく揺さぶり、校内に大きな被害をもたらしました。地震直後の校内の状況を写真で報告します。



上：武石浩玻立像は土台から崩落し無残にも横たわっていた
右：体育館側に向いていた飛田穂洲翁の胸像は地震の振動で回転し後ろ向きになってしまった

左：本城橋脇の水郡線崖地の崩落危険箇所（4月に入りその補修工事が行われていた）

上（上・中）：校内各所の舗装面には亀裂が入った
特に崖地の多い本校では周囲を巡るフェンスの崩落が目立つ

上（下）：増築毎に新旧校舎を接続した箇所の亀裂・断裂が各所に見られ危険箇所となっている



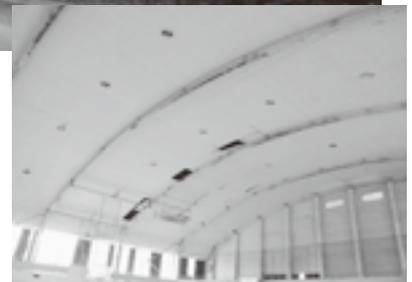
上：4月7日の入学式では体育館が使えず開校初の各クラス毎の入学式となった。今年度の入学者数は324名（男子188名女子136名）



左：放送室でマイクに向かう角田会長。困難に立ち向かい高い志を持って勉学に励むよう新生入生に語りかけた



上・右：古い体育館は天井が落下する危険性が高く早急な補修が必要となっている



東日本大地震に遭遇して

校長 早川 源一



平成23年3月11日午後2時46分、6時限目の授業が始まってまもなく、この長く不気味に揺れた大地震が起こりました。担任の誘導ですぐ教室外に避難

し、グラウンドに集合しましたが、なかなか余震が収まらず、点呼を取り、員数確認して、余震が落ち着くのを待つだけで精一杯でした。少し余震が収まり、やや薄暗くなってきたので、教室から貴重品だけを取り出し、靴に履き替え、自転車・歩き等で帰宅できる者は帰宅させ、残りは学校に止まり、自宅と連絡を取り続けながら、江山閣と本館1階の多目的室で一晩を過ごすことにしました。結局主に1、2年生の218人の生徒が残ったので、教職員も、学年毎に生徒を保護する班、水戸駅に情報収集に行く班、食糧と水を確保するための買い出し班と手分けしながら対応しました。買い出し班は何とか食糧を確保してきたので、自家発電で自動販売機を動かし水分補給に努め、暖房も確保して、教職員はほとんど不眠不休で一晩を過ごしました。翌朝にかけて自宅との連絡も取れてきたり、保護者の方が迎えに来たりして、昼過ぎには全員学校を出ることができ、夕方

までには電源が復旧して機械警備が可能となったので、管理職も帰宅することになりました。

生徒は1人も負傷することなく、全員無事帰宅できたので、一安心ではありましたが、校地や校舎はかなり損傷を受けておりました。体育館の天井の損傷やガラス窓150枚程度が割れたり、校舎も亀裂が走り鉄筋がむき出しになっている箇所もあったり、グラウンドやコンクリートの坂が地割れしていたり、武石浩玻立像は土台が崩落して落下し、飛田穂洲胸像も後ろ向きになってしまうなど、未曾有の被害がありました。

体育館は補修するまでは危険なため使えず、入学式も体育館では行えないため、生徒・保護者には教室に入ってもらって、放送で行うことになりました。また、交通機関が回復するまで時間が掛かり、3月の授業はいうまでもなく、4月になっても11日まで授業ができない状態でした。ほぼ1ヶ月間、学校がストップとなってしまった訳です。未曾有の被災ではありましたが、知道会の方々からは、様々な形でお見舞いや励ましのお言葉、ご支援のお言葉などを頂き、大変嬉しく思っておりますし、勇気づけられました。まだ福島原発の動向も気になるころではありますが、体育館や破損箇所や備品等もできるだけ早く修復して、生徒が安心して学校生活を送れるよう進めたいと考えておりますので、ご支援等よろしくお祈りいたします。



上：地震直後の各部屋では棚の転倒などが激しく足の踏み場もない状況であった（進路室）



上：知道会事務室においても壁に亀裂が入り 棚から書類等が落下するなどの被害に見舞われた

震災に遭遇して（生徒会長の感想）

生徒会長 黒羽琢真



まず第一に、この度被災された方へのお見舞いと亡くなられた方への哀悼の意を申し上げ、日本の一刻も早い復興を祈っております。

地震発生時は、揺れに驚くばかりで、戦後最大の災害だとも思いませんでしたが、全容がわかってくると、地震、津波そして原子力発電所の事故など、予想できないような深刻な事態が多発していることを知り、不安でした。ライフラインも止まり、そのような震災を通して、普段自分達はいかに便利な生活をしているか、そしてそれらにどれだけ依存していて、どれだけありがたいことなのかを感じました。当たり前だと今まで思っていたことが、幸せなことだと改めて感じる一方で、犠牲となった方が大勢いることや、全てを失い避難生活を送る人がいることを考えると胸が痛みます。私達も被災者ですが、苦しみ

の大きさがそのような方と比べると小さいと感じます。今後、苦しんでいる人達の助けに少しでもなればと、生徒会を中心に義援金を集めたいと考えています。震災直後も、地震の被害を受けた校舎の片づけの手伝いに来たり、ボランティア活動をしていた生徒もいたようです。そのように、自分から考え行動できる一高生が一つとなればとても大きな力となり、社会に貢献できると私は思っています。

この度の震災で、たくさんの悲しみがありました。日本は着々と復興にむかっています。それは、周りの人と協力して困難に立ち向かう、日本人の強い精神力があるからだと思えます。今後日本という国家を担うことになる私達は、そのような日本人の良さを受け継ぎ、この震災を通して学んだ助け合いの心を持って、社会に出ていくなのだと感じています。この震災で私は自分達の無力さを感じました。将来、再びこのような災害に遭った時、誰かのためにしっかり役に立てるそんな人間になれるように、今後様々なことを勉強して、人として成長していきたいと思えます。

次年度から年会費の預金口座振替を開始します

多くの会員の皆様からご要望をいただいております、知道会年会費の銀行等預金口座振替を次年度から実施いたします。

口座振替を導入することにより、皆様の毎年の会費振込負担が軽減されますし、何よりも知道会の会費管理の効率化と収入の安定化を図ることが期待できます。

会員の皆様には、会費の納入推進と次年度からの口座振替による会費納入につきまして、ご協力の程よろしくお願いたします。

今回の会報に、口座振替依頼書を同封いたしました。

別紙記載例を参考に、必要事項をご記入の上、銀行届出印を押印していただき、事務局へ9月15日(木)までにご返送くださるようお願いいたします。

なお、口座振替可能金融機関は下記のとおりで、茨城県以外にお住いの方にも幅広くご利用できます。

1. I-N E T

常陽銀行、筑波銀行、水戸信用金庫、結城信用金庫、茨城県信用組合、茨城県信用農業協同組合連合会及び会員農業協同組合

2. ワイドネット

口座振替依頼書記入例の裏面を御覧下さい。

会計報告 第59期 H21.10.1～H22.9.30
第60期 H22.10.1～H23.9.30 (単位：円)

項目	第59期決算額	第60期予算額
収入の部		
年会費	9,042,000	10,000,000
卒業生入会金	1,635,000	1,600,000
寄附金収入	664,640	100,000
会員の集い会費	1,045,000	1,050,000
受取利息	44,046	40,000
特別積立金取崩	914,534	1,150,000
雑収入	1740	10,000
前期繰越金	432,751	0
収入合計	13,779,711	14,155,000
支出の部		
運営費	(12,202,169)	(12,020,000)
会員の集い費	1,787,684	1,600,000
会議費	94,190	100,000
事務局運営費	2,085,816	2,100,000
通信費	3,029,220	3,030,000
消耗品費	100,513	110,000
旅費交通費	145,160	150,000
渉外費	104,194	100,000
支部強化費	370,500	400,000
振替手数料	487,760	500,000
印刷費	3,586,372	3,500,000
リース料	410,760	430,000
事業費	(331,753)	(475,000)
総務委員会費	56,068	65,000
財務委員会費	20,000	20,000
広報委員会費	136,204	180,000
名簿委員会費	10,000	10,000
親睦委員会費	109,481	200,000
母校助成費	(1,139,976)	(1,240,000)
卒業記念品費	462,977	470,000
大会補助金	406,999	500,000
卒業生褒章	270,000	270,000
特別積立金繰入	(0)	(0)
雑費	(105,813)	(0)
予備費	(0)	(420,000)
次期繰越金	(0)	(0)
支出合計	(13,779,711)	(14,155,000)

第60期
知道会役員
及び委員

()卒業年次

※幹事

◎委員長

○副委員長

☆新役員

顧問	※○大内 常男(43)	皆川真規夫(45)	飯村 雅明(55)	☆鹿志村 茂(H5)
後藤 卓三(19)	蓼沼 洋一(46)	勝山 文久(45)	橘川 栄作(56)	☆加藤 高弘(H9)
西野虎之介(23)	※○木戸 明良(47)	※○根本 祐一(46)	平山 桂巳(59)	職域代表幹事
早川 源一(46)	三上 靖彦(52)	関田 国作(53)	瀬谷 尚男(63)	※綿引 義久(44)
会長	横山 伸一(53)	伊藤 道子(53)	鈴木 圭輔(H5)	※比佐 敬(44)
角田 芳夫(28)	黒木 雅宏(58)	☆佐藤 昌樹(55)	☆海老澤佳之(H9)	※宮本 正治(45)
副会長	竹村 広治(H3)	☆太田 聖史(58)	親睦委員会	※黒沢 吉之(52)
※永井 靖彦(35)	川崎 篤之(H8)	仲田 留美(63)	※○富永 潤一(46)	※川原井 司(60)
※川又 論(38)	☆後藤 直樹(54)	名簿委員会	佐藤 衛(47)	監事
※助川 裕(42)	☆後藤 岳志(54)	※○奥野 茂雄(44)	※○小林 圭子(48)	坂本 和重(48)
幹事長	☆大谷 基道(H1)	※○檜山 雅顕(44)	荒谷 慈(52)	篠原 勉(48)
※栗原 英則(48)	☆星野 博史(H11)	※○水口 二良(47)	※○君和田利智(57)	事務局
副幹事長	財務委員会	広報委員会	星野 幸子(57)	古平 恒夫(37)
※深谷新太郎(57)	※○板橋 義則(40)	※○井上 操(43)	黒沢 広忠(58)	小澤美智子
※河野 秀幸(63)	※○西山 良昭(41)	宮内 寿子(47)	高林 憲一(58)	
総務委員会	大金 誠(42)	※○川又 敏郎(49)	小林 一利(58)	
※○粉川 勝(42)	後藤 克己(43)	※○和田 宏(51)	原口 哲也(60)	

【行余学会から】

東日本大地震は湊地区にも大きな爪あとを残しました。電気が5日くらいで復旧した後も、水道は1週間以上断水していました。津波はお魚市場から湊本町に押し寄せ、道路も到る所ひびが入っています。湊大橋は通行止めの状態が続いています。ひたちなか海浜鉄道湊線(旧茨城交通湊線)も現在運休中です。

お魚市場は一店舗が再開し、他も連休前の再開を目指しています。しかし、海水の放射能汚染の影響で、茨城産の魚介類は店には出ていません。湊線も通勤通学者の足の確保のため、7月の再開に向け復旧工事を進めています。まだまだ大きな余震もあり、不安を感じる日々ですが、みんなで頑張って乗り切りましょうと、大平征二新会長からメッセージがありました。

【事務局から】

就任のご挨拶

古平恒夫(昭和37年卒)

北條勝彦事務局長の後任を仰せつかりました古平(こだいら)と申します。前局長の5年余のご活躍・ご尽力に敬意を表しますとともに、大役に身の引き締まる思いです。技術畑の出で、知道会活動経験も豊富とは言えず、責務を果たせるか心配ですが、母校に対する熱い思いは皆様に決して引けを取らないつもりです。誠心・誠意努めますので、会員各位のご指導、ご鞭撻、ご協力を何卒宜しくお願ひ申し上げます。